

[担当教員]

末包伸吾(教授) 中江研(准教授) 浅井保(助教)

[Teaching Assistant]

越智誠(A66) 斎藤愛(A65) 前田洋佑(A66)

大学内での活動としての講義や演習・実習とは別に、ある一定の期間、空間を共にし、集中した活動や共通の目的をもって活動する場が求められている。この課題は、近畿圏の大学共通施設として位置づけ、セミナーや共同制作、スタジオ、社会との連携など学内では難しい様々の活動に対して自由で豊かな場を提供することを目的としている。

■計画敷地

計画敷地は、神戸市灘区の山麓市街地に位置する灘丸山公園の土地を想定する。現在の公園用地の全部または一部をセミナーハウス用地として使い、敷地へのアプローチも南側の道路をそのまま利用するものとする。

■建築概要

建築施設の延べ面積は4,000㎡程度とし、階数、構造は自由とする。

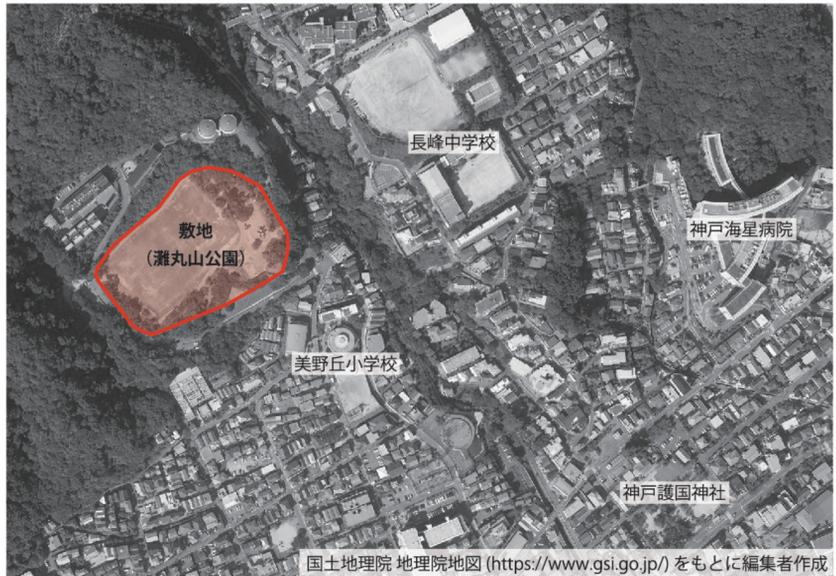
■利用者

施設の利用者は主として大学生、大学院生、大学教員であり、15人単位(10人~20人)が6組宿泊でき、最大で150人の学生が共同で研修できる施設とする。また、指導教員や外来者が別に15人宿泊できる諸室を確保すること。

■提出図面

A1の用紙にコンパクトにまとめること。

- ・全体配置図：scale 1/500
- ・各階平面図、立面図、断面図：scale 1/200
- ・透視図または模型写真



国土地理院 地理院地図 (https://www.gsi.go.jp/) をもとに編集者作成
課題敷地

■講評会の様子



大地がもたらすもの

CHEN KEN

昔から、平地には人が集まり、自然に集落が形成されてきた。人為的に削って作られた平地に今の時代に相応しい集落の在り方を考案した。縄文時代の集落における求心的な交流の場に基づいて、考案した交流の場をめぐって現代集落を設計した。



SOUTHEAST ELEVATION 1:200

セカンドハウス

佐田桜

敷地全体が緑に囲まれた「家」のような空間を提案する。室内外問わず「場」があり、お気に入りの場を見つけどころでも活動ができる。季節によって表情が変わる。2階に設けた宿泊室を家のような空間にし、仲間と過ごすことで様々な活動が生まれ絆が深まる。



Layered Wall

藤原比呂

一方向に沿って連立している壁から生まれるこの建築は壁と壁の間の層がそれぞれ機能ごとに分けられているため、時間の変化に合わせて人の密度の変化に違いが出る。また、壁の穴の開け方を変えることでさまざまな空間が生まれ、学外活動をより豊かにする。



広場のピロティ

村上竜也

広場がより豊かになることを目指し、1階部分を大きなピロティとした。不均質に立つ柱、吹き抜けから落ちる光、景色を切り取る曲線の屋根がフラットだった広場に秩序を与え、地域と学生のための新しい木陰を生み出す。



廻りの丘

小池晃弘

地域の人々と学生の交流を図るセミナーハウス。灘丸山公園の機能を残した南北の地域動線に学生が活動する東西の動線が交わった時、新たなアクティビティが生まれる。

